

瀬戸内市の歴史紹介

千手老人クラブ 岡崎 春樹

千手老人クラブの総会の資料には、後世に伝えたい遺跡や遺物の歴史を掲載しています。今年には邑久町山田庄の太古の朝倉氏族・牛窓の息長氏族の品治部遺跡の歴史です。

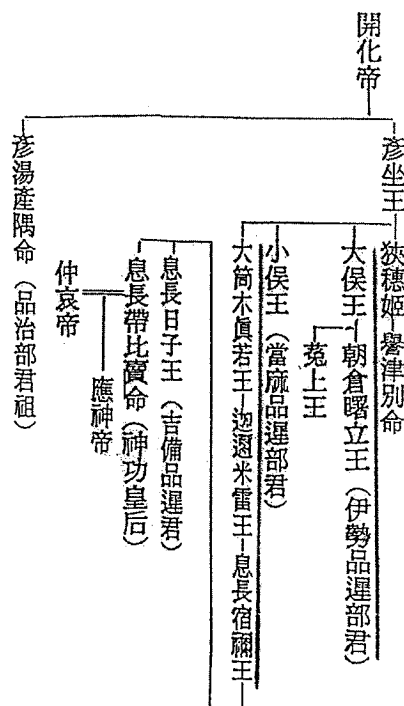
瀬戸内市に生存する太古の朝倉氏族・息長氏族（神功皇后）の品治部遺跡

邑久町山田庄の品治神社は、品治（品遅）部氏族の御先祖の神社です。下記神社の品治氏族の系譜に見える、当地の朝倉曙立王の子孫、朝倉氏族が多く繁栄され、又牛窓には太古より息長家の神功皇后の伝説の遺跡があり『古事記』に吉備の息長宿禰王が葛城の高額比売を娶り生まれた子が息長帯比賣命（神功皇后）である。

平城宮出土木簡に須恵郷、葛木部小墨が見えます、神功皇后の母も葛木部の人である。又神功皇后に仕えた、牛窓町黒島古墳に鎮座の武内宿禰の子孫、竹内氏族が繁栄され菩提寺の妙福寺を守られている。神功皇后の皇子応神天皇のお妃である、兄媛は織部（服部）を賜り子孫が、子々孫々と生存され、息長家菩提寺の金剛頂寺を守られている。『日本書紀』の神功皇后記に、皇后が《更に齊宮を小山田邑に造った》と記載される、山田庄の品治神社である。



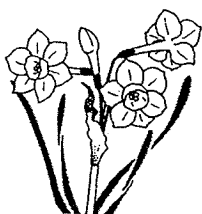
姓氏家系辞書より抜粋の品治氏族の系図



邑久郡誌より抜粋

二、現在の神社調

神社名	鎮座地	祭神	祭日	創立	氏子・信徒、崇敬者数
一、村品治神社	邑久村山田庄本神	息長日子王、火車都和氣皇命、朝倉曙立命	十月廿七日	天弘長頼	三二四人
二、村黄船神社	邑久村山田庄黄船山	高陵神、雲雲鳴神	十月廿二日	！	一〇六戸



『日本書紀』に吉備の「日向国橘小門」

の遺跡の説話が明記される。

岡崎春樹

下記の『日本書紀』の神功皇后記に、小山田邑（現代の邑久町山田庄）に更に齋宮を造り、武内宿禰（牛窓町黒島古墳に鎮座される）に琴を引かせ、審神者（神託を解く人）に聞いて「日向国の橘小門」の表筒男・中筒男・底筒男（現在の牛窓町五香宮の神）に祈願され、吉備臣の祖で鴨別（応神天皇に服部姓を賜った兄媛の兄、牛窓町に服部氏族が繁栄される）を遣わして熊襲国を撃たせた。と記載される、全ての遺跡が瀬戸内市に実在される。

日本書紀卷第九

氣長足姫尊

神功皇后

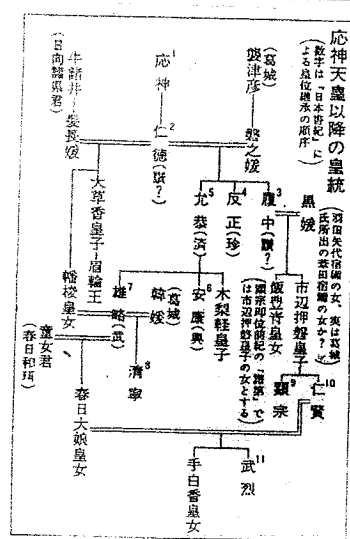
氣長足姫尊、稚日本根子彦大日、天皇之曾孫、氣長宿禰王之女也。母曰葛城高瀨媛。足仲彥天皇二年、立爲皇后。幼而聰明敏智。貌容壯麗。父王異焉。○九年春二月、足仲彥天皇崩於筑紫極日宮。時皇后傷天皇不從神教而早崩、以爲知所崇之神、欲求財寶國。是以命群臣及百寮、以解罪改過、更造齋宮於小山田邑。○三月壬申朔、皇后選吉日、入齋宮、親爲神主。則命武内宿禰令撫琴。喚中臣烏賊津使主爲審神者、因以千縷高瀨、暨琴頭尾、而請曰、先日致天皇者誰神也。願欲知其名、逮于七月七夜、乃答曰、神風伊勢國之百俣度逢縣之折鈴五十鈴宮所居神、名拙賢木殿之御魂天球向津媛命焉。亦問之、除是神復有神乎。答曰、幡狄穗出吾也、於尾田吾田節之淡那所居神之有也。問、亦有耶。答曰、於天事代於虛事代玉鏡入彦殿之事代神有之也。問、亦有耶。答曰、有無之不知焉。於是審神者曰、今不答而更後有言乎。則對曰、於日向國橘小門之水底所居、而水葉稚之出居神、名表筒男・中筒男・底筒男神之有也。問、亦有耶。答曰、有無之不知焉。遂不言且有神矣。時得神語、隨教而祭。然後遣吉備臣祖鴨別、令擊熊襲國。未經決辰、而自服焉。且荷持田村熊襲。有羽白熊鷲者、其爲人強健。亦身有翼、能飛以壽翔。是以不從皇命。每略盜人民。○戊子、皇后欲擊熊鷲、而自極日宮、選于松峽宮。時飄風忽起、御笠隨風。故時人號其處曰御笠也。○辛卯

『日本書紀』神功皇后紀に示す「吉備の日向橘小門」の写真

応神天皇より兄媛が織部（服部）を賜る。その兄媛の兄「吉備の鴨別」が、熊襲を撃ちに出港された説話の「日向橘小門」の写真です。



所在地、邑久郡牛窓町唐琴瀬戸



『応神天皇紀』の吉備の説話に見えます。日向国諸県君《牛窓》の発音から《牛窓》が考えられる。

『古事記』に吉備の「豊国」「倭国造」

の遺跡の説話が明記される。

千手老人クラブ 岡崎 春樹

下記の『古事記』に、現代の歴史学の「日本の始まり」は、小国家分立時代の吉備の説話
に瀬戸内市（旧邑久郡）に「日本の始まり」の遺跡の説話が明記されます。

瀬戸内市の歴史紹介

古事記 中巻

神武天皇

御東行の途上

神倭伊波礼比古命^{ニギハヤヒ}与^ニ其伊呂兄五瀬命^{イハヒ}二柱、坐^ニ高千穂宮^{タカチホノミヤ}而^{シテ}云、坐^ニ何地者、
平聞^ニ若^ク天下之政^ヲ、猶^モ思^フ東行^ス。即^チ日向^ニ筑紫^ニ行^ク。故、到^リ豊国^ノ宇沙^ノ之時、其土人、名^ヲ
沙都比古^ニ・宇沙都比売^ニ時、二人、作^リ足^一一藤宮^ニ而^{シテ}献^ス大御饗^ヲ。自^レ其地^ニ遷移^シ而^{シテ}、於^テ竺紫^ノ岡田^ニ
坐^シ一年^ヲ坐^シ。亦^チ從^テ其国^ニ上幸^ス而^{シテ}、於^テ阿岐国^ノ之多祁理宮^ニ七年^ヲ坐^シ。亦^チ從^テ其国^ニ上幸^ス而^{シテ}、於^テ
吉備之^ノ高島宮^ニ八年^ヲ坐^シ。故、從^テ其国^ニ上幸^ス之時、乘^リ龜甲^ニ而^{シテ}、為^シ釣^ノ作^リ打^ノ羽^ノ拳^ノ來^リ人^ニ、遇^フ于^テ速吸門^ニ。爾^レ
喚^ヒ曰^ク、汝^ノ之^ノ改^メ者^{誰^ニ也}。答^フ曰^ク、倭^ノ国^ノ神^ニ也。又^チ問^フ、汝^ノ者^{誰^ニ也}。答^フ曰^ク、能^ク知^ル海^ノ道^乎。答^フ曰^ク、從^テ而^シ仕^ス奉^ス乎。答^フ
曰^ク、倭^ノ國^ノ神^ニ也。故、爾^レ、推^シ度^シ爾^ノ御^ノ船^ニ、引^キ入^リ其^ノ御^ノ船^ニ、即^チ賜^フ名^ヲ、椎^ノ根^ノ津^ノ日子^ト。此^ノ者^{誰^ニ也}也。

皇軍、紀伊に迂回

故、從^テ其国^ニ上幸^ス之時、經^リ浪^ノ速^ノ之^ノ波^ヲ而^{シテ}、泊^リ青^ノ寒^ノ之^ノ白^ノ羽^ノ津^ニ。此時、登^リ美^ノ能^ノ那^ノ賀^ノ須^ノ泥^ノ毗^ノ古^ノ。此^ノ者^{誰^ニ也}也。
其^ノ軍^ノ兵^ノ以^テ戰^フ。爾^レ、取^リ所^ノ入^リ之^ノ御^ノ船^ニ而^{シテ}下^リ立^ス。故、号^ス其^ノ地^ヲ謂^フ、楯^ノ津^ト。於^テ各^ノ者^ノ云^フ曰^ク、日^ノ下^ノ之^ノ波^ノ津^ト。

現代語訳します確認下さい。神倭伊波礼比古命（又名、若三毛沼命、千手山山王権現宮の神）と五瀬命（安仁神社の神）の二柱が、高千穂宮（旧大宮の村）に坐す時、協議して云た。「何地に坐せば平らげ、天下之政治ができるか、東に行こう」そして日向（日本書紀には、小国家時代の牛窓を、当時は日向牛諸と書いている）を発して、筑紫に行幸され、『豊国』の宇沙（現在の西大寺“豊村”宇沙は、宇佐の三所白山権現と伝えられる当時の円定寺の神、明治の神仏分離令により豊原角神社等と改名の三所の豊原神）に到る時、其土人、名は宇沙都比古・宇沙都比売の二人が、足一つ上りの宮を作り、大御饗を献上、其地より移りて、竺紫の岡田の宮（日本書紀には岡水門の宮）に一年坐した。（現在の邑久町福元の岡八幡宮、この宮には、神武天皇の母、玉依姫が鎮座され、岡氏族も繁栄され史実を物語っている）亦、其国より上幸され阿岐国之多祁理宮（神武天皇の祖父達が鎮座される、朝日村と考察）に七年坐した。又其国より上幸して、吉備之高島宮に八年坐した。（この高島宮には、天孫降臨された、神武天皇の曾祖父ニギノ命が鎮座される。現在は江戸時代に、幸島村稻荷神社と改名）故、その国より上幸之時、龜甲岩に乗り釣りをしていた人と、速い吸門（現在の幸島村水門の龜岩）であつた。汝は誰かと問うと「僕は国神と答えた」（日本書紀には、国神の珍彦と記載され、岡山市神崎町神前神社に鎮座）又問う「汝は海道を知るか」「能く知っている」と答えた、又問う「みどもに仕えるか」「仕え奉る」と答えた。故にその御船に引き入れ、さお根津日子と名号を賜る（日本書紀には、椎根津彦と記載）この者は『倭国造等之祖』と明記される。（現在の岡山市神崎町“神崎集落”は、国神の珍彦が鎮座される神前神社及び氏寺の成願寺を一集落で維持管理され、莊園時代は神崎莊園と称していた。）『記紀』及び『魏志倭人伝』に明記される。小国家時代の『龜甲で釣りをしていた倭国造』『龜岩』等の貴重な『倭国の神崎集落遺跡』がある。瀬戸内市（旧邑久郡）は、日向国・豊国・倭国・岡水門・高島・水門の龜岩・神武天皇親兄弟、母方等の一族の神社遺跡と、東征準備の麻で衣服を作った麻御山神社（おみやまじんじゃ）遺跡も有り、『記紀の吉備の説話』は、日本発祥地である。確認下さい。